

長期的に患者を診るためのチームアプローチ

Team approach to long-term patient care



上田 こころ

Kokoro Ueda

医) こたけ会 武井歯科クリニック

Takei Dental Clinic

臨床の正否はすぐに結果として出るとは限らない。正しいと思ったことも時間の経過とともに間違いに気づくこともあれば、またその逆もある。

学生時代の臨床実習で、根管治療のアシスタントが退屈で仕方なかった。教科書に載っているイラストによる根管の図とデンタルX線写真を重ね合わせることは、歯科医療に従事し始めた私にとっては解剖の知識不足もあり、リアリティーに欠けていた。その他にも歯科医師が何をやっているのか、根管の中がどうなっているのかなどの進捗情報が分からなかった事もあるのではないかと今に思う。患者も同様、おそらく何をしてもらうのかよく理解していないまま治療が始まり、いつの間にか最終補綴物が装着され、再び噛めることの安堵から特に深くは考えず治療が終了してしまう。

私がマイクロスコープに出会ったのは今から 23 年前の歯科衛生士 2 年目である。初めて見るマイクロスコープによりモニターに映し出されたリアルな根管内や、治療後に歯科衛生士による録画映像を用いた説明に患者が深くうなずいていた場面を今でも鮮明に思い出す。入社当時は、歯科医師が根管治療に使うと有効な道具というような認識であったが、マイクロスコープによる使用用途は実は幅広く、歯科医師も歯科衛生士も自身の臨床がスキルアップをしていく過程でマイクロスコープの使用頻度や用途も広がっていった。

「治療をして説明をする」当たり前の過程ではあるが、そこにマイクロスコープが加わるだけで大きく結果が異なる。

ほとんどの人がまだマイクロスコープのことを知らなかった 23 年前、「どうせまた悪くなるのだから」と言う患者に繰り返し説明をし続けた結果、今もなお通い続けてくれている患者が多くいる。また現在の当医院では、「出来るだけ自分の歯を大切にしたい」と考え予約を求める新規の患者がほとんどである。

同じことを同じところでやり続けてきた結果、治療の持続性や、患者との継続した信頼関係が築けている今、自身のしてきたことが正しかったのではないかと、ようやく思えるようになってきた。

そこで本講演では、長期的に患者を診続けるために歯科医師と連携しマイクロスコープをどのように活用し取り組んできたかをお話できればと思う。

【略歴】

2002 年 群馬県高等歯科衛生士学院 卒業

群馬県内歯科医院勤務

2004 年 医療法人こたけ会武井歯科クリニック勤務

2017 年 日本顕微鏡歯科学会認定歯科衛生士取得

2024 年 認定指導衛生士

I first encountered the microscope 23 years ago, during my second year as a dental hygienist. Since then, I have utilized the microscope in collaboration with dentists to provide long-term care for patients. This paper aims to share how I have applied this technology in clinical practice.

She graduated from Gunma Prefectural College of Dental Hygienists in 2002.

In 2003, she worked at an orthodontic clinic in Gunma Prefecture for one year, before joining Takei Dental Clinic in 2004, where she has been employed since.

In 2017, she became a certified dental hygienist by the Japanese Society of Microscopic Dentistry.

In 2024, she was certified as a Certified Instructor Hygienist by the Japanese Association of Microscopic Dentistry (J.A.M.D.).
